

防災を知ろう

「防災の「自助」「共助」「公助」とは」
災害時の命を守る力の比率 7:2:1

まもなく9月1日の「防災の日」です。この機会に防災についての知識を深めてみましょう。

今月は、防災対策で重要な3つのキーワード「自助」「共助」「公助」を中心に災害時に命を守る方法を紹介します。



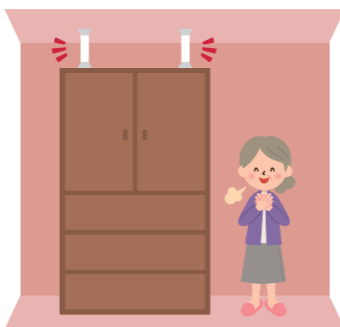
「自助」について

1. 「自助」とは

災害による被害を少なくするためには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要です。中でも災害発生時の基本行動は、「自助」です。「自助」とは自分の身を自分で守り、自分の命を自分で助けることです。大切な家族や近隣の方を助けることができる防災の基礎となる最も大切なものです。

2. 「自助」の取り組み

- ・家具や家電製品などをし型金具や突っ張り棒などで固定する。
- ・食器棚などの開き戸は、留め金を付ける。
- ・ガラスは、強化ガラスに替えたり飛散防止フィルムを張ったりする。



- ・3日以上（できれば1週間）の水と食料の備蓄をする。水は1人1日分約3リットルを目安にする。
- ※防災対策品や保存食などは、ホームセンターなどで年間を通して購入できまです。主食（米・パンなど）だけでなく、主菜（肉や魚）など栄養バランスを考えましょう。



・家族防災会議を開き、避難場所や集合場所、安否確認の方法、非常用持ち出し品などの確認や災害用伝言サービス「177」の利用について話し合う。地震ハザードマップに掲載の「わが家の防災メモ」などを活用する。



・自宅の耐震診断と耐震改修を行う。

※市の補助がありますので詳しくは「市報ぎょうだ」6月号をご覧ください。



災害用伝言サービス「177」とは、災害時に通信の混雑を避け、家族や知人と安否の確認が行えるよう固定電話・携帯電話・イ

ンターネットで、「災害用伝言サービス」を提供しています。毎月1日・15日など無料で体験できる利用日がありますので、積極的にご利用ください。



「共助」について

1. 「共助」とは

災害発生時に近隣や地域の方々、自主防災組織・自治会などで協力して、消火活動や救出活動、避難誘導などの災害対応の活動を行うことです。災害時、自分一人で出来ることには限界があるため、「公助」の手が届くまでの間、地域の方々や協力した行動が、一番迅速な災害対応になります。

2. 「共助」の取り組み

・初期消火や避難誘導、救出・救護訓練などの防災訓練を実施する。

- ・防災知識の普及啓発を行う。
- ・地域の危険箇所を把握する。
- ・避難する際に介助を必要とする方を把握しておく。
- ・消火器、担架、毛布、簡易トイレなどの防災資機材を備蓄する。
- ※自主防災組織で購入の際は、市の補助制度があります。詳細は防災安全課へご相談ください。

防災関係のDVDを貸し出しています

防災安全課では防災知識の普及啓発のために、防災関係のDVDを貸し出しています。このような資料を使って、事前に知識を得ることも重要です。



貸し出ししているDVDの一部

助け合う地域づくりのために

いざというときに地域住民が助け合うことができるように日頃から地域のコミュニケーションづくりを心掛けましょう。
(例) 祭、清掃活動、体育祭などへの参加



ジュニア防災研修

災害時に地域防災の新たな担い手となってもらうため、「ジュニア防災研修」を実施。市内の中学生が参加しました。



ジュニア防災研修を受講する中学生

自主防災組織・自治会による取り組み

「共助」において重要な役割を担う自主防災組織・自治会を対象に実施する防災訓練や防災リーダー養成講座などに、地域で参加してもらうことで、自主防災組織の強化を図ることができます。



自主防災組織・自治会規模で防災訓練を実施



自主防災組織・自治会の防災リーダーを養成